

北高二十年誌



佐賀県立佐賀北高等学校



大高食堂(旧)



昭和51年開校記念日遠足



昭和41年生徒総会



昭和51年前夜祭



昭和42年登校風景



昭和52年内科検診



昭和47年

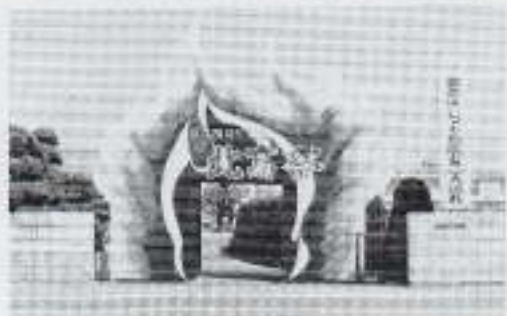


文化祭中庭の演奏会

二十周年記念行事



昭和54年北高会館



創立20周年記念北高祭



昭和56年新館の特別教室棟



生徒代表の挨拶



昭和56年新築の部室



文化祭OBの賛助出品



昭和56年交通安全標語



記念講演古田 求氏

01 親睦旅行

	1	2	3
38年	鏡山 210円		
39年	鏡山 230円	久留米石橋文化センター 太宰府神社 200円	
40年	鏡山 230円	久留米石橋文化センター 太宰府神社 210円	香椎花園・大濠公園 260円
41年	久留米石橋文化センター 太宰府神社 200円	鏡山・虹の松原 230円	香椎花園・大濠公園 290円
42年	久留米石橋文化センター 太宰府神社 210円	鏡山・虹の松原 240円	香椎花園・大濠公園 260円
43年	久留米石橋文化センター 太宰府神社 220円	鏡山・東の浜海岸 240円	名護屋城址・波戸岬 270円
44年	久留米石橋文化センター 太宰府神社 290円	鏡山・東の浜海岸 310円	名護屋城址・波戸岬 340円
45年	名護屋城址 波戸岬 400円	三井グリーンランド 360円	三井グリーンランド 350円
46年	名護屋城址 波戸岬 430円	三井グリーンランド 380円	佐世保・弓張岳・動植物園 490円
47年	佐世保 弓張岳・動植物園 590円	三井グリーンランド 440円	佐世保・弓張岳・動植物園 590円
48年	三井グリーンランド 440円	三井グリーンランド 440円	佐世保・弓張岳・動植物園 600円
49年	波戸岬・名護屋城跡	熊本城・水前寺公園	波戸岬・名護屋城跡
50年	太宰府・大興善寺	三井グリーンランド	佐世保・弓張岳・動植物園
51年	波戸岬・名護屋城跡	三井グリーンランド	熊本城・水前寺公園
52年	三井グリーンランド	熊本城・水前寺公園	三井グリーンランド
53年	三井グリーンランド	三井グリーンランド	三井グリーンランド 1,200円
54年	三井グリーンランド 1,200円	三井グリーンランド 1,200円	名護屋城跡・波戸岬 1,390円
55年	多久聖廟・鬼の鼻 1,320円	都府楼跡・太宰府 1,390円	名護屋城跡・波戸岬 1,390円
56年	大興善寺・基山 1,400円	都府楼跡・太宰府 1,500円	名護屋城跡・波戸岬 1,600円
57年	太宰府・都府楼 1,500円	太宰府・都府楼跡 1,500円	波戸岬 1,800円

S. 49～53年度はクラス別に徴集

02 修学旅行

昭和39年度より修学旅行はじまる関東：関西方面

昭和40年 — 8月29日～9月4日 東京—日光—京都・奈良—大阪(2年男女452名)

昭和43年 — 8月22日～28日 富士・箱根—鎌倉—東京—京都・奈良—大阪

(2年男子 170名、女子 297名：1人当経費 16,545円)

昭和44年度より2年男子は2泊3日の九重研修旅行となる。

昭和47年 8月25～31日 静岡—信州—京都(自主見学)—奈良(女子263名)

昭和54年 8月20～25日 同上コース 1人当経費 45,170円

昭和57年 8月22～28日 〃 〃 62,000円

めている現状では、反則行為その他事故等人命にかかわる問題として日常のきめ細かな指導が必要であることは言うまでもない。

次に**非行防止**について、近年青少年の非行は増加の一途をたどり戦後第三のピークを迎えているとも言われている。本校における非行の実態も喫煙をはじめ万引、スピード違反等々年間数件（全体の2～3%）の指導措置を受けるものがある。校内においては**職員**の**巡回制**を設け休み時間、放課後の監視を行い、校外においては他校および関係機関の協力による合同巡回等を行い非行の防止に努めている。非行の原因や

その背景についても様々な議論がなされているが、今日物質文明の発達した社会の中では子供達すべてが非行の要因を持っていると考えなければならない。このことを念頭に置いて、学校では教師と生徒、家庭では親と子がお互いにより一層の信頼関係を確立し将来に向かっての展望を見出さなければならないであろう。本校も創立20周年を迎え、その歴史の重みを感じると同時に、これから先更に10年、20年とすばらしい伝統と校風樹りを目指しての努力が続けられることを願うものである。



東門通学道路



昭和46年校舎全景



「私と水泳……そして今」

昭和49年卒 野田真樹子

昭和43年11月、佐賀県に初めてスイミングクラブが結成されました。当時、私は小学校6年生、小さい頃から体育は好きでしたが、これとって水泳は得意な方ではありませんでした。しかし、母の強いすすめもあって入会することになり、週2回プールに通い始めました。これが私と水泳との出会いです。

中学に入って本格的に練習を始め、生活のすべてが水泳を中心に回っているようでした。その甲斐あってか中学3年生のとき、全国中学校選抜水泳選手権大会で、400m、800mの自由形の2種目に優勝することが出来ました。自分でも信じられないほどで、自分自身本当に「全国制覇したんだナ〜」と思えるようになったのは、しばらくしてからでした。そのときは、喜びと満足感でいっぱいでした。しかし、その反面「いや、もっと努力して、もっと速くなってやろう」という新たな気持ちで、我が母校、佐賀北高等学校に進学しました。

入学すると同時に、水泳部の監督として、あの「ゴリちゃん」のニックネームで名高い田中制先生が転動していらっしゃいました。県の水泳界でも選手の間で最も厳しさと恐れられていた、あのゴリちゃんが……と思うと身震いするほどでした。

練習は、昔・輩とも、どこにも負けないくらい厳しく、インターバル練習では、50mを1分インターで20本、また100mを2分インターで20本が毎日あって、それぞれに制限タイムがつけられました。もし、制限タイムよりオーバーした場合は、その本数だけ加算され人より多く泳がなければなりません。だから、みんなそれこそ必死でした！

また、女性は月1回の生理のときには、よほどのことがない限り休むことは、できませんでした。男子部員と一緒に泳ぐ私達女子部員は、いかにして、わからないようにするために水着やバスタオルの色を変えたりして、いろいろ苦心したものです。

何のスポーツも同じですが、1日休むととり戻すのに3日間かかるし、1週間休むと1ヵ月かかるといった具合に、体調が揃います。だから仕方ないことです。

厳しい練習の中にも、ひょうさん族の田中先生は、馬泳ぎやあひる泳ぎをしてみせたりして、楽しくもありました。

こうして、私達は泣いたり、苦しんだり、笑ったりして、練習に耐え、頑張りました。そして、その成果は実を結び、私が在学する3年間は、県のインターハイで団体優勝をしました。

個人的にも、良い成績を上げることが出来ました。高校1年の高知県での全国インターハイでは、思いがけず、400m自由形で私は薬に優勝することが出来ました。また、2年生の石井さん(旧堤さん)も7位入賞をされました。

翌年の山形県での全国インターハイでは、私ひとりという淋しい出場でした。400m自由形の決勝では、タッチの差で2位に入り、優勝は逃したものの、記録は大ベストタイムで満足のいく、レースができました。

そして、問題の高校3年生の夏、いつものように、全国インターハイ、団体等を目指して連日、厳しい練習をしていました。しかし、どんなに、どんなに泳いでも調子が上がらず、むしろ悪くなる一方でした。先生や他のみんなも心配してくれました。からだ全身がだるく力が入らず、腹痛もひどくなるし、もう耐えられなくなり病院へ行きました。すると、なんと「盲腸と診断され、すぐにも手術しなければならぬくらい悪くなっていました。私は絶望しました。それまでずっと、全国大会へ出場して良い記録を出すことが、自分の実力をみる唯一のときと置いていただけに、そのときのショックは大きいものでした。

しかし、入院しているとき、毎日のように見舞いに来てくれるクラスメートや、そしてクラブの仲間を見ていて、感謝の気持ちと同時に、たとえ、表には目立たなくとも、自分なりに一生懸命こつこつと努力し、私を応援してくれている水泳の仲間を見て、この人達こそ、水泳が好きで、真のスポーツマンだと思いました。

もし、私が努力しても努力してもその成果が報われず行ったり来たりの状態だったらやめていたかもしれません。私の場合、スランプという言葉も知らずに、小学校から大学まであまりにもスムーズに水泳選手というレールに乗ってきました。だから、何かがあると動揺するんです。

私は、現役引退してから、よく聞かれることがあります。「全国優勝するには、大変な努力をされたでしょうネ」って。私は特別に秘密練習したわけでもありません。同じ環境で同じ練習をしてきて、同じように指導されてきました。けっして人から言われるほど並はずれたことはしていません。ただ自分に通じたスポーツであったことと、運がよかったというだけです。むしろ、私達のように目立った者よりも、そういう目立たない選手の方がより以上に努力しているはずですよ。

現在、私は社会体育の仕事をしていますが、今の心境から言うと、一流選手を育てることは、もちろん大切なことです。しかし、その下にいる、何百、何千、何万といる目立たなくとも自分なりにこつこつ努力している人達のことを忘れず大切に見守り、応援したいナ〜という気持ちです。そして、生涯を通じて楽しみ、喜びを感じるスポーツを続けて欲しいと思います。どんなに優秀なオリンピック選手だって初めは、みんな初心者なのですから。これは、選手生活そして、社会体育の仕事を通しての実感です。

私が今、現在あるのも、多くの方々の協力や理解があったからこそです。すばらしい恩師、気のいい仲間、そして家族、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからは、水泳を通して経験したこと、感じたことを、いろいろな面に生かして、みなさんにご恩返しが出来れば……と想っています。

最後に、私が学んだ佐賀北高等学校での3年間、本当に意義深い3年間でした。この先何年、何十年経っても忘れることがないでしょう。今在学している人や、これから入って来る人に言いたいことは、何もしないで過ごす3年間も、何かに一生懸命打ち込む3年間も同じ3年間ならば、後で振り返ってみて「あ〜よくあの頃は頑張ったナ〜」と思えるような高校生活を送って欲しいものです。

人間だれでも努力すれば、努力した分の成果は、何らかの形で自分に必ず生かされるはずですよ。どうか、佐賀北高等学校いや佐賀県を背負う若者として、実のある青春を過ごして下さい。

(佐賀県教育庁体育保健課勤務)

全国総体制道優勝昭和40年		長野国体昭和53年	
位々木 一夫	篠崎 正允	陸上(少年女子)100M 1位	
蒲原 雄一	蒲原 信幸	増田 恵	
橋尾 和明	青柳 孝		

北 高 会 館

(1) 青雲館—北高食堂—との訣別

昭和42年10月に完成し県下各高校の先端を切って北高生の給食の一翼を果たして来た青雲館は、12年の間OB各位の思い出を数々残して、昭和54年2月を期に食堂及購買部は新築なった北高会館に移った。現在体育の授業、卓球部のクラブ活動更には生徒会総務室等に利用され来っている。

(2) 北高会館建設の概要

i 建設の経緯：北高創立15周年を迎え、本校にも佐賀西高や佐賀東高みたいな同窓会館が欲しいとの希望が、OBを始め後援会及教職員から起こり、冒明な歴代後援会長及び校長は校庭に隣接した北西部の土地を用意され、我々に提供、会館建設の基盤は既に成っていた。ここに元会長東塚氏および歴代校長に衷心より感謝の意を捧げねばなりません。さて愈々建設に着手する段に至った際、色々な障害がありました。西太郎校長、藤島後援会長の日夜を忘れた熱意と、建設委員会を度重ね実現に踏み込まれた永橋先生のご功勞に負う超大で感謝の言葉を知りません。建設委員会の方々に厚くお礼を申し述べます。

ii 施設概要

1. 敷地 742㎡
 2. 鉄筋コンクリート2階建(1部3階)
 3. 間取り(1階)食堂・購買部・調理室・便所・倉庫(2階)和室(60、64、8畳)洋室・事務室・便所(夫々322㎡)(3階)浴室・機械室・物干し(96㎡) 全館冷暖房空調設備を完備
- ii 建設費 約1億1千万円
- iv 工 期 昭和53年6月～12月
- v 資金償還計画：生徒1人毎月額600円拠出。
(在校期間中)10か年で償還予定。同窓生1口3,000円寄附。
- vi 請負業者 中野建設 浜江建設事務所



北高会館とテニス・コート

(3) 北高会館利用状況

○ 会館設立の主旨

- i 全生徒の日常利用に供するためのもの。(新入生へのオリエンテーション、勉強会等)
- ii 生徒会各部の合宿共同訓練の施設。
- iii より良い人間性を育てる施設としての生徒への贈り物。

以上の主旨にもとづき、昭和54年度より耐寒訓練・文化祭前夜祭等々の給食や体育部及び文化部の合宿訓練に、年延べ約1万名の職員・生徒が利用して、スキンシップに依る教育の実を齎らされて来た。特に57年度新入生は4月下旬より5月初旬にかけて、オリエンテーションを1泊2日の学習訓練を主目的として会館で実施された。ちなみにその費用は1,600円弱で好評だった。581名参加。

○ 年度別利用状況

年 度	使用人員数(延べ)	宿泊数	生徒対象の割合
S. 54.3.1 - 55.3.31	1,146名(86件)	88泊(28件)	65:35%
S. 55.4.1 - 56.3.31	8,061名(148件)	69泊(35件)	55:45%
S. 56.4.1 - 57.3.31	6,094名(107件)	52泊(26件)	33:45%
S. 57.4.1 - 57.9.30	3,003名(60件)	31泊(11件)	65:35%

※特に57年度には新入生の全員対象の合宿研修が各クラス1泊2日で行われた。

○食堂購買部の現状

青雲館食堂の取客人員より少なくなり手狭となったがメニューは変化にともみ生徒間にも好評である。ただ席数が約半分になった為か、1年間の食堂の利用者数も約半数になっている。即ち青雲館で年間1万人程度の利用数が新設の北高会館食堂では4千人～5千人程度となっている。大部分の生徒がパン牛乳で昼食をとっていると思われる。会館に移って以来、購買部の方からの申し出で清涼飲料水の販売を許可して今

日にいたっている。奨励すべきものではないが、校内外の飲食店に飲みに行く生徒防止の意味でもあり、再三の生徒会からの要望もあったため止むを得なかった。

○販売食品（メニュー）の価格推移

- (i)パン（ここ10年間）
 50円パン→60円に
 60円パン→70円に
 80円パン→100円に

(ii)食品類

食品	42 2	43	44	45 12	46	47	48 1	49	50	51	52	53	54	55	56	57
定食	80	〃	〃	90	〃	〃	110	150	〃	230	〃	250	〃	280	〃	300
ライス	30	〃	〃	30	〃	〃	40	〃	〃	80	〃	〃	〃	90	〃	100
カレーライス	70	〃	〃	80	〃	〃	100	〃	〃	180	〃	200	〃	230	〃	250
いなり(3コ)	50	〃	〃	60	〃	〃	70	〃	〃	90	〃	120	〃	〃	〃	130
うどん	30	〃	〃	40	〃	〃	50	〃	〃	110	〃	120	〃	〃	〃	150
てんぷらうどん	40	〃	〃	50	〃	〃	60	〃	〃	140	〃	150	〃	〃	〃	180
ちゃんぽん												250	〃	280	〃	300

○売上総額（年間）約1千万円・月額100万円程度である。

今後の北高会館の利用の効率化と生徒諸君

OB諸氏、父兄、職員等の特別の配慮をお願いして、本来の目的主旨に合致した会館としての充実発展を心から期待する。



57年新入生合宿研修会



北楠会の20年

(1) 歴代会長

初代	萩原 尚	1期生	昭41年～
2代	高柳 茂信	1 "	昭43年
3代	糸山 芳則	3 "	昭44年
4代	永瀨 修	1 "	昭46年
5代	中牟田 昭	4 "	昭48年
6代	大曲 宏一	6 "	昭50年
7代	多々良 昌一郎	9 "	昭52年
8代	亀井 雄治	1 "	昭55年
9代	亀井 雄治	1 "	昭57年



北楠会事務局（旧）青雲館二階

(2) 総 会

第1回総会	昭和42年 8月	佐賀県体育館
2 "	" 44 " 8 "	"
3 "	" 46 " 8 "	佐賀市農協会館
4 "	" 48 " 8 "	"
5 "	" 50 " 8 "	朝日生命ビル
6 "	" 52 " 8 "	"
7 "	" 54 " 8 "	北高会館
8 "	" 56 " 8 "	ニューオーダニ佐賀





卒業記念タオル





毎年、新しい卒業生へ北橋会が贈ってきた
卒業記念品のタオル
デザインは吉田進一先生

通信制の歩み

沿革

- 昭和23年 佐賀第一高等学校通信教育部を開校。
- 昭和24年 佐賀第一高等学校、佐賀第二高等学校、成美高等学校の三校統合により、佐賀高等学校と改称され、通信教育部を東校舎（現中央公園）に置く。
- 昭和30年 開講科目が26科目に達し、通信教育のみで卒業の途が拓け、翌3月、第一回卒業生2名を送り出す。
- 昭和33年 前年に樟友会（現生徒会）が生まれ、この年、樟友同意会も結成される。
- 昭和35年 佐賀市中折（現天祐二丁目）に北校舎が建設され、通信教育部も新校舎に移転される。
- 昭和38年 佐賀高等学校のマンモス化により、この年の4月、三校に分離。通信制は新設された佐賀北高等学校に併設される。当時の専任教員11名、事務職員3名、在籍生徒1400名、日本放送協会学園高等学校の協力校となる。
- 昭和39年 一期制入学に改む。
- 昭和42年 通信制専用校舎（現通信棟）新築される。本年度より学年制に準じる教育課程を実施する。
- 昭和44年 学校法人引地学園（唐津市）と技能連携教育を開始する。5月、県立青年の家で第一回新入生宿泊研修会を実施する。
- 昭和48年 佐賀北高等学校創立十周年記念式典挙行される。
- 昭和52年 通信専用教室完成、8月、通信教育三十周年記念式典挙行される。
- 昭和56年 身障者用車いすスロープ完成される。



通信制教育活動の推移

初期

昭和30年度には、開講科目数が26科目に達し、第一回卒業生2名を送り出したが、当時の教育活動を示す資料に乏しいのは残念である。

成長期

昭和40年度前後までは、科目履習の積み重ねによる学習体制をとり、入学も随時で、専任教員は地区担任制をとり、県内各地を巡回し、面接指導を行っていた。一時巡回指導地は、唐津、呼子、玄海、肥前、伊万里、武雄、藤野、杵島、島鶴の県下全域にわたり、国立肥前療養所（神埼）、国立東佐賀病院（中原）県立病院更生館（佐賀）、大和助産（佐賀）では集団生の平日面接指導も実施された。

発展期

昭和38年4月、現在の佐賀北高等学校通信制が生まれ、39年に4月のみの入学制に切り替え、42年には学年制に準ずる教育課程を実施し、学級担任制も確立し、現在の指導体制に徐々に接近した。44年には、第一回新入生宿泊研修会が実施され、脱藩防止活動の推進、面接指導会場の整理、指導陣の強化が進んだ。

円熟そして変革期

昭和49年以降は入学者数が毎年300名は優に越え、昭和53年には実に393名の入学者をみた。その間、

卒業生数も昭和49年には172名と、昔の通信制を知る人にとっては驚くべき数となっている。このような円熟期を象徴するかのように、昭和52年に、特設の通信専用教室が完成した。しかし、近年の高校入学率の増加は通信制への入学者数に影響を与え、昭和53年度をピークに、その後徐々に減少しつつある。しかし、入学生徒数は減少しつつあるものの、通信制の内容には、今日の社会状況を是事に反映しているものが二つある。一つは、高等学校全日制からの転入生の増加が、ここ2～3年顕著であるということ。あと一つは、生涯教育の立場から、高年齢者、主婦層の増加が著しいということである。この生涯教育というものは、今日の教育制度の欠陥を救うものとして、社会的関心が日毎に高まっている折、佐賀北高等学校通信制の役割は想像以上に重いものと考えられる。従って今後の通信制は、当然これまでと違った道を考えねばならなくなってきている。今の通信制はこのような社会状況に即対応できる能力を十分に蓄積していることが、過去の実績から明らかである。

思い出



第1回佐賀北高校通信制新入生宿泊研修会
5.4、5、10～11（保青年の家）



昭和41年度北高通信制卒業式



三校分離後の定通総体の入場行進
(於佐賀西高)



昭和42年までの通信制職員室
(現社会科準備室)



スクーリング風景(1)



スクーリング風景(2)



昭和57年8月全国(神宮)大会出場



通信制の機関誌
(昭和24年4月創刊)